

青松とちぎ

新潟大学 人文・法・経済学部同窓会 栃木県支部会報



2019.5.1 第2号

発行責任者 藤沼哲史

事務局 〒320-0821

宇都宮市一条 3-2-31

考古学研究室の発掘調査を支援

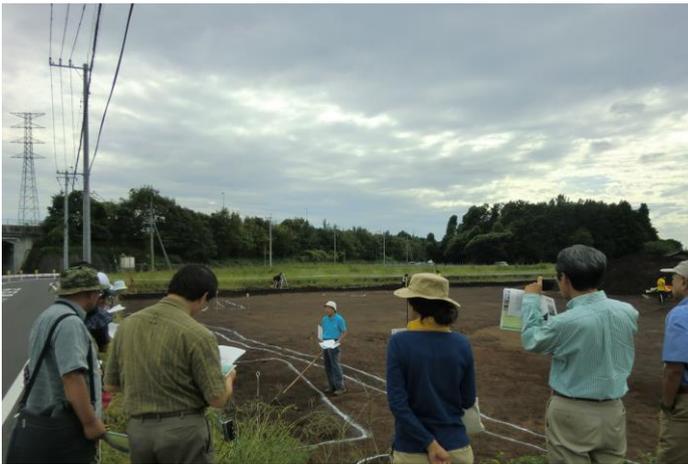
みなさんは、「豪族居館」という言葉をご存知ですか？

古墳時代の豪族が居住した、その地域の政治的支配の中心地と考えられており、大型高床建物・祭祀址・製作址などが濠・柵によって区画された遺跡です。

県内では、さくら市の四斗蒔遺跡、矢板市の堀越遺跡などがあり、宇都宮市にも、北関東自動車道の建設に伴う事前調査において東谷町南端の上三川町境で発見された「権現山遺跡」があります。

新潟大学文学部の考古学研究室は、2010年から17年にかけて計6回にわたり同遺跡の発掘調査を行ってきました。

昨年9月14日から29日にかけて、まだまだ暑さの残る中、橋本



発掘現場で見学者に説明をする橋本先生（中央白帽子）

博文教授を中心に研究室の学生10数名が発掘作業を行い、居館外周の堀の形状や居館内部の遺溝、建物跡の分布などを確認しました。

同窓会栃木県支部は、以前から発掘調査に協力してきた会員の興野喜宣氏（昭和51年経済卒）から実施の情報を得て調査への支援ということと、9月

19日、藤沼支部長、斎藤副支部長が現地に飲み物と果物の指し入れを行いました。また26日には「せつかく宇都宮に来たならギョーザ

食べていったらいかんべな。」ということと、焼餃子15人前を差し入れました。

この3月で橋本教授が定年を迎えたため、今後の調査の見通しは立っていませんが、機会があれば今後も支援を続けていきたいと思っています。

令和元年度支部総会開催

栃木県支部は、令和元年度総会を左記のとおり開催します。皆さんはそれぞれ卒業後、様々な道を歩んでおられると思いますが、併せて開催する懇親会で、学生時代を過ごした新潟に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

日時 6月29日(土) 12時〜

(受付11時30分〜)

会場 ホテルニューイタヤ

JR宇都宮駅西口から徒歩5分

TEL 028-6335-5511

懇親会費 6千円

新潟大学の思い出

―かけがえのない出会い―

昭和50年経済卒 入江吉晴



(筆者近影)

昭和46年春、バットを持って足尾線（現わたらせ渓谷鐵道Ⅱわた溪）終着間藤駅を出て桐生で両毛線に乗り換え上越線経由、ほぼ一日がかりで新潟に着いた。下宿は信濃町（当時近くにBSNハウジングがあった）。通学は越後線関屋から内野へ、五十嵐キャンパスで授業開始。ただガイダンスは西大畑キャンパス「40番教室」？だったと思う。当初、野球部練習は西大畑。間もなく五十嵐キャンパス内に新球場が完成し、

「こけら落とし」、神宮を目指した。1年時のキャプテンが法学部四年渡辺徹

さん（元宮城県警）、よく飲みに連れて行ってくれた。（牛ちゃん、牡丹、蛇の目寿司等々）今年の年賀状に「昨年フルマラソン37回走りました」とあった。そう言えば、一緒の海辺のランニング、付いていくのがいつもやっとなかった。

2年からは3年間内野のアパート暮らし（土屋アパート、飯付き）。私が風呂から上がると、おばさんが私に「なじらね?」、なぜ風呂に入るのかと尋ねたのかと解釈して、真面目に縷々説明、後で意味を聞いて苦笑。

とにかく新潟の米はうまく、皆よく食べた。土日は飯休みで「大吉」「新川食堂」「八珍柿」等へ。いつもおばさんが、「うちの米消費は他の倍」と自慢しつつ嘆いていた。でも可愛がってもらい、就職後もOB会で新潟に行く度に寄らせてもらった。

一学年上に経済学科の小林憲一さん（後野球部主将）がいて、その先輩の勧めで「公文ゼミ」に入った。公文先生は、就職は金融機関を勧めた。私も小林さん（地元市内の先輩でよく夕食に呼んで頂いた、最後商工中金監査検査部長）から商工中金に誘って頂いたが、結局総合商社ニチメン（現双日）財務部資金管理課へ。しかし高校野球の指導者の夢断ち難く、一年で退社して栃木県立高校の社会科教員として栃農に赴任、以後栃高、栃南（現翔南）、足工（教頭）、小山（教頭）足女（校長）と勤務、足女で定年退職後地元のマロニエ医療福祉専門学校・小山歯科衛生士専門学校にお世話になって7年目を迎えている。

ニチメンでお世話になった島村課長が、「坂の上の雲」の主人公秋山真之の上司島村速雄のお孫さん、だから「すぐ読むように」と同課の横井先輩に言われて読んで以来愛読書になった。横井さんは後ニチメンアジア大洋州、ニック社長（退職後立命館アジア太平

洋大学で教鞭）を歴任、今でもご指導頂いている。新大先輩太田さん（準公式野球部からニチメン食糧部）に声を掛けられ野球部に入る。そこでお世話になった、大変可愛がって頂いた一塁手土橋さんは双日初代社長（元会長）。

同じアパートに理学部地質鉱物学科の滝沢松雄さん（後野球部主将）がいた（一学年上）。卒業後ロンドン大学に留学、石油資源開発に入社。私が高校野球の監督時、度々県営球場等に駆けつけてくれた。仕事が世界中での石油の掘削、世界各地のスライドを送って頂き、授業の教材として活用させて頂いた。一学年下の経済に北海道滝川高校出身のナイスガイ中村克之君がいた（私の次の主将）。北海道に帰省するとよく「松尾ジンギスカン」を持参してくれて北海道の美味を知った。三井物産に入社活躍され、今年の年賀状に「足がもつれ気味のジョギングを始めた」とあった。野球部の部室があったプレハブの和室でよく合宿を行い、その度によくコンパをやった。「突入コンパ」

「中締め」「打ち上げ」。ただ「新歓コンパ」など正式のものは古町に繰り出し「越路会館」「清水フードセンター」等。

五十嵐野球場の隣に準硬式のグラウンドがあったが、栃高の監督の頃、そこで練習していた富沢さん（当時群馬県立沼田高校野球部長、英語科教諭）から、練習試合の話があり、県大会決勝に勝ち進んでいた好チーム、以来毎年（前橋工業時代含め）お手合わせ頂いた。富沢先生はその後群馬高野連理事長となり、群馬・栃木選抜チーム対ハワイ選抜親善試合の通訳なども行った。

関東甲信越大会宇都宮で宇大と戦った。一応完投したが、1対0で負けた。その試合で2安打と気を吐いた二年経済の柳町孝次君は地元常陽銀行現在参事。相手宇大の一学年上の主将四番捕手が、最後鹿沼東中校長（第14代目少年野球協会会長）福田栄さんだった。沢山いる私の教え子の中学の先生（野球の指導者）がご指導頂いている（私も）。宇大チーム同級生森田選手は現在上三川町教育

長。一昨年、「人権講話」を頼まれ、恥ずかしながらやらせて頂いた。本当に久しぶり、あの試合以来の対面だった。

よく先輩からご馳走になり、「順番」（当時の風潮）なので、後輩に奢るためにもアルバイトをした。バイト先の市内の表装店で自分より二歳下の姫路君（結婚後は本田君、現在新発田市でインテリア店経営）という職人さんと仲良くなり、新潟を離れた後も互いの結婚式に出席しあう等今でも交流があり、私の次男（敦史、宇都宮市内中学校勤務）が同じ新潟大の経済に入ったときも、引越した時にかみさんと泊めて頂き大いに飲み食べ語った。隣が俳優三田村邦彦さんの実家だった。

愚息と栃高野球部同級生鈴木宏為君も新潟経済、卒業後獨協医科大事務。新潟大学図書館課長補佐で退任された木村哲衛氏にもご教示頂いた。木村氏の親戚の子の「家庭教師」も頼まれ、卒業後も時々お会いし（出張で宇大に來られた時にはこちらで）、栃高時、

受験生激励、同僚の小堀先生（この原稿の件で最初に連絡頂いた人文OB、現真岡高校軽部校長と共に私が尊敬している国語の先生、小堀先生の御子息小堀篤史さんも新潟大学人文↓新潟日報）と新潟へ。今でも同先生と会うとその話になるが、木村さんの大歓待を受けて、いつもの通り、私は飲みすぎの体たらく。

長く勤めたその栃高で担任した生徒の一人篠原一彰君（新大経済卒）は、富士銀行（現みずほ銀行）に、東京での結婚式に招待され頼まれスピーチしたが、お嫁さんも同じ地元新潟出身の新大卒、同結婚披露宴では大いに懐かしさが込み上げてきた。

新潟と言えば、昨夏専門学校の北関東信越プロック大会が新潟で開催され、会場が「イタリア軒」、新大時代まさに「高嶺の花」、感慨もひとしおだった。



昭和49年五十嵐グラウンドにて信州大学との交流試合後列右から5番目が筆者

このように新潟大学での、多くの人との「出会い」がいかに私の人生をより豊かにしてくれたことか、実に「かけがえのない」四年間だった。それらの出会いに感謝しながら、まだまだ語り尽くせないこともあるが、後ろ髪引かれつつ筆を置きたい。

ミツマタ群生地ハイキング

(ウォーキング同好会活動報告)

友人)を加え4人のメンバーとなりました。

同窓会栃木支部の有志で組織するウォーキング同好会は、今年3月18日(月)、絶好のハイキング日和に、茂木町逆川地区の焼森山・鶏足山の登山とミツマタ(和紙の原料で紙幣にも使用)の群生地を巡るハイキングツアーに参加しました。

リーダー役の川崎利夫氏(昭和48年法卒)が急遽都合で参加できなくなりましたが、広田満(昭和49年法卒)、藤沼哲史(同)、斎藤康史(昭和51年法卒)3人の会員と篠崎達夫氏(斎藤氏



鶏足(けいそく)山頂上にて少々バテぎみの面々

ツアー参加者は総勢23人で、平日のためかほとんどが高齢者でした。この事業は、「いい里さかがわ館」という野菜直売所やそばレストラン等を併設するいわゆる都市農村交流施設を拠点として行政や観光協会、地域のミツマタ保全協議会等が一体となって企画・募集したイベントのようです。

ミツマタ群生地周辺の観光は、JRと全国の各地域とで展開している観光イベント(DESTINEーションキャンペーン)にも組み込まれ、関東近県からも多くの観光客が訪れています。

保全協議会の人たちの案内で、人ひとりがやっと通れる山道や岩場の難所もなんのその、日頃鍛えた老体に鞭打って最初は意気軒昂に進んで行きました。標高500メートルにも満たない山々であり楽勝と考えていましたが、シルバー世代には結構厳しい箇所もあったかなという印象です。

鶏足山からの眺めは大変爽快

彼岸頃に満開を迎えるミツマタ



であり、北西には雪を頂く日光連山、東側には筑波山などが連なり、遠くは茨城県庁舎(との説明あり)が霞んで見えました。山頂で食べた施設提供の「さかがわの昼めし」は、ごつごつした岩の上の昼食にも拘らずたいへん美味しかったです。

ミツマタの群生地は二つの山を下りた地点にあり、谷間を囲むように起伏のある遊歩道が設けられ大勢の人々で賑わっていました。陽が当たる個所は花が白から黄色く色付き、残り半分は白

が中心でこれから最盛期と思われましたが、日常見られない光景に夢中でカメラのシャッターを切りました。

杉木立の間に淡い陽が差しこみ黄色の花々が咲き乱れる幻想的な光景が、JR東日本のポスターにも使われましたが、今回やや早めの時期であるため白と黄色の花々が混在した状態とはいえ、非日常的な光景を目の当たりにして満たされた気分になったのは言うまでもありません。

私たちは、心地よい疲労感と満足感に浸りながら幸せな気分での帰路に就きました。

編集後記

同窓会報第2号をお届けします。会報の名称が「青松とちぎ」に決定しました。

創刊号で会報の名称を募集したところ、会員の皆さまから多数の応募があり、「栃の新」など、ユニークなものもありましたが、支部役員会で検討の結果、「青松とちぎ」が多数の支持を得たところです。応募されたみなさんのご協力にお礼申し上げます。(副支部長 斎藤康史)